



脳神経リハビリテーション課 言語係
言語聴覚士 裴 雅蓮

私はリハビリテーション部に所属している言語聴覚士（ST）です。言語聴覚士はことばや聞こえ、食べる機能に問題がある方が、自分らしい生活を構築できるよう支援するリハビリテーション専門職です。ことばの問題は、脳血管障害による失語症、記憶障害などの高次脳機能障害、先天的な言語発達の遅れ、声・発音の障害などに大きく分けられますが、小児から高齢者まで幅広く起こり得ます。言語聴覚士は、このような問題の原因や治療方針を明らかにし、必要な訓練、代償手段の活用、ご本人と家族への指導や助言等、さまざまな援助を行います。

この仕事と出会ったのは5年前でした。甥が脳炎になり幸い一命は取り留めましたが、ことばがなくなったり、右半身も不自由になっ
てしまいました。わらにもすがりたい思いの時に、リハビリの存在を初めて知りました。リハビリを必要としている人が、リハビリを受けられる環境になればとの願いに突き動かされ、日本へ留学し、言語聴覚士になりました。

私が関わる患者さんは、自分の思いがうまく伝えられないもどかしい気持ちでいる方が多いのです

さらに専門的な知識を 身に付け、患者さんを 支援していききたい



が、時に小さな喜び、感動に立ち会つことがあります。ある日、わずかながらことばが出るようになってきた重度失語症の患者さんが、家族の前ではつきりと奥さんの名前を呼んだのです。全員が感激し、涙が溢れ出ました。その瞬間、今までの孤独な世界に一筋の光が差し込んだと感じました。

裴さんは、中国の大学を卒業後、日本の大学院で言語聴覚療法を学び、言語聴覚士国家資格を取得しました。流暢な日本語は、日常会話はもちろん臨床でも違和感のないレベルです。会津の偉人野口英世は「志を得ざれば再び此の地を踏まず」との決意で学んだと聞きます。縁あってここ会津でリハビリテーションを学ぶことを決意した裴さんの、努力を惜しまず貪欲に吸収し、患者さんのために尽くそうとする姿は、野口博士の志と重なって見えます。

いつも明るく朗らかで、スタッフにも患者さんにも人気の裴さん、ますますの活躍を期待しています。

上司からと
ひとこと

脳神経リハビリテーション課
言語係 室長

阿久津 由紀子

